

当院で接種可能な主な予防接種と料金

※表示金額はすべて税込のみです。2024年11月現在

| ワクチン名 | 費用 |
|--|----------------------------|
| 肺炎球菌ワクチン(ニューモバックス) 成人の肺炎における原因菌の約3割を肺炎球菌が占めており、肺炎が重症化しやすい高齢者においてはワクチン接種による肺炎球菌の予防が重要です。定期接種の対象であれば、公費によってまかなわれます。 | 自費:7,500円 |
| 麻疹風疹混合ワクチン(MRワクチン) 風疹ウイルスは発熱・発疹といった症状を引き起こします。特に成人で発症した場合、小児より重症化することがあります。また、風疹に対する免疫が不十分な妊婦さんが感染すると、胎児に障害が出る可能性があります(先天性風疹症候群)。風疹の予防に最も有効な予防方法はワクチン接種であり、95%以上の割合で風疹ウイルスに対する免疫を獲得できます。 | 自費:8,300円 |
| おたふくかぜワクチン ムンプスウイルスによる「流行性耳下腺炎」を予防するワクチンです。成人が感染すると小児より重症化しやすいため、ワクチン接種経験あるいは感染経験がない場合は、成人でも接種をおすすめします。 | 自費:5,800円 |
| 带状疱疹ワクチン(生ワクチン) 带状疱疹の発症率は50歳代から高くなり、80歳までに約3人に1人が带状疱疹を発症するといわれています。带状疱疹は「带状疱疹後神経痛」という皮膚のしびれや疼痛といった後遺症を残すことがあり、皮疹が消えた後も後遺症に悩む方がおります。後遺症を防ぐ1番の方法は、带状疱疹の発症予防・重症化予防を目的としたワクチンを接種することです。生ワクチンの利点は価格が安価かつ1回接種であることですが、欠点として不活化ワクチンに比べると予防効果・持続期間が低い点があります。50歳以上から接種可能ですので、興味のあるかたはご相談ください。 | 自費:8,300円 |
| 带状疱疹ワクチン(不活化ワクチン)(シングリックス®) これまで带状疱疹のワクチンは「生ワクチン」が主体でしたが、2020年に「不活化ワクチン」が発売されました。不活化ワクチンの利点は、生ワクチンと比べて発症予防効果が高く予防効果の持続期間が長いことですが、2回の接種が必要で費用も高額となります。带状疱疹をなるべく高い確率で予防したい方には適しているワクチンです。 | (1回目、2回目ともに) 自費:23,000円 |
| 二種混合ワクチン(ジフテリア・破傷風) 11歳~12歳を対象としたジフテリアと破傷風のワクチンです。定期接種の対象年齢であれば、公費によってまかなわれます。 | 自費:4,500円 |
| 日本脳炎ワクチン 日本脳炎を予防するワクチンです。定期接種の対象年齢であれば、公費によってまかなわれます。 | 自費:5,000円 |
| B型肝炎ワクチン | 自費:4,500円 |
| インフルエンザワクチン | 年度により変動するため最新のお知らせをご確認ください |
| 新型コロナワクチン | |